

群馬県立高崎高等学校(全日制) 学校評価一覧表 令和6年度版

(別紙様式)

羅 針 盤			方 策	点検・評価 達成度			達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価									
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等	総合											
I 特色ある学校づくりに努めていますか。(全体・生徒部・SSH部)	1 3F精神に基づいて、全校をあげて特色ある教育活動に取り組んでいますか。	① 3F精神に基づく取組を、生徒の90%以上が本校の特色として認識している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3F精神と各種教育活動との関わりを明確にして、生徒と教職員で共有する。</li> <li>・ 生徒一人ひとりが学校生活の中で3F精神に根差した活動を日々積み重ねられるように指導し、認め合い、高め合える集団づくりを行う。</li> <li>・ 生徒会総務及び実行委員等と連携を図りながら、各行事の指導助言を行う。</li> <li>・ 部・部顧問との連携を強化し、施設等の効率的な活用を推進しながら県内入賞種目を増やす。</li> <li>・ ボランティア活動を全校で積極的に取り組めるよう、生徒会総務を中心に活動を進め、地域と連携を図っていく。</li> <li>・ 教務部と連携して、授業改善研修のテーマとして、クロスカリキュラムの開発に取り組み、全校体制で実践する。</li> <li>・ クロスカリキュラムの公開授業・研究会を2学期に実施することを念頭において準備及び授業実践を行う。</li> <li>・ 関係機関との連携協定を結ぶことで、課題研究の質をさらに高める。</li> <li>・ 連携協定に基づいて、県内外に成果が波及するような取組を「共創」する。</li> <li>・ 1学年においては、素朴な疑問をテーマとした学術型の課題研究を実施し、研究報告書をまとめることで、課題研究の基礎的素養を身につける。</li> <li>・ 2学年においては、社会課題をテーマとした文理融合型の課題研究を実施し、アイデアの提案だけではなく、アクションを行えるようにする。</li> <li>・ 2学年SSHクラスにおいては、メンターシステムを効果的に活用し、課題研究の質を高められるようにする。</li> <li>・ 3学年SSHクラスにおいては、外部の論文コンテスト等に応募する前提で質の高い研究を行い、統計学的なデータ処理等に基づいた考察を進め、研究論文としてまとめる。</li> <li>・ 理数系部活動やスーパーサイエンス部を中心に、外部コンテストに関する情報を共有し、積極的な参加を促す。</li> </ul>														
	2 「真の文武両道」実現に向けて、学校行事、生徒会活動を充実させていますか。	② 生徒会諸行事・定期戦・翠巒祭の成功。学校行事が充実していると感じている生徒が90%以上である。 ③ 部活動加入率の増加・高校総体総合上位入賞。上位大会への出場数を増やす。部活動が充実していると感じている生徒が90%以上である。 ④ 地域の清掃活動や社会に貢献できるボランティア活動に取り組む。		⑤ クロスカリキュラムの指導案が12事例以上あり、それを実践事例集としてまとめ、本校Webページに公開している。 ⑥ 県内外の教職員が参加する公開授業・研究会を年1回以上実施している。													
	3 (SSH事業)クロスカリキュラムを全職員体制で取り組むとともに、広く成果を普及させていますか。	⑦ 連携協定を2つ以上結んでいる。 ⑧ 連携協定に基づいて、県内外に成果が波及するような取組を年1回以上実施している。		⑨ 1学年において、研究報告書をまとめ、提出することができた生徒が70%以上である。 ⑩ 2学年において、アクションを実施した班が25%以上である。 ⑪ 2学年SSHクラスにおいて、外部発表を経験している生徒が50%以上である。 ⑫ 3学年SSHクラスにおいて、外部の論文コンテスト等に応募した班が25%以上である。													
	4 (SSH事業)関係機関との連携を強化することで、課題研究の質をさらに高めるとともに、成果を県内外に波及させていますか。	⑬ 科学オリンピック系や課題研究系のコンテスト等への参加者が50名以上である。															
	5 (SSH事業)サイエンス・プロジェクトとサイエンス・コミュニケーションの時間を効果的に活用し、課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力、主体的に学ぶ態度を深化させていますか。																
	6 (SSH事業)理数系部活動及びスーパーサイエンス部の活動を一層普及させ、科学に対する興味関心を向上させるとともに、より高いレベルを目指して主体的に学ぶ態度を育成していますか。																
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。(教務部・広報渉外部)	7 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	⑭ 授業に満足している生徒が90%以上である。	・ 生徒の実態把握に努める。また、教員一人ひとりが生徒の学力向上を目指し、日々授業改善にあたる。														
8 生徒は確かな学力を身につけていますか。	⑮ 進路目標に応じた学力を身につけたと自己評価している生徒が90%以上である。	⑯ 新しい「学力の観点」に基づき、教員一人ひとりが、評価と一体化した指導を行うことで、生徒の学びを励まし、学力向上を促す。また、生徒自身も自らの学習成果について、自己評価を行う。	・ 教科内の、また教科の枠を超えた教員同士の授業参観と指導方法の研修を推進する。SSH部との連携のもとクロスカリキュラムを推進する。 ・ シラバスを日常的に活用する。														
9 教員個々及び集団としての教科指導力の向上と授業改善を推進していますか。	⑯ 全教員が教科横断型または教科専門型のいずれかの授業研修を年1回以上実施する。 ⑰ シラバスを評価する生徒が80%以上である。	⑲ オリエンテーション等で積極的に読書指導を行う。 ⑳ 『群青』を活用し、読書感想文コンクールへ意欲的に取り組ませる。 ㉑ 書架及び書庫の整理を行い、利用者が本を探しやすい環境を整える。 ㉒ 時宜にあった図書館行事を企画、開催し、生徒の図書館利用を促進する。 ㉓ 「図書館だより」及び「図書館報」を定期的に発行する。 ㉔ SSH関連図書整備と活用促進を図る。															
10 生徒の読書習慣を早期に育成していますか。	⑲ 貸出冊数が2,500冊を超える。 ⑳ 図書館主催行事を年3回以上実施する。 ㉑ 「図書館だより」の年10回以上発行する。																

群馬県立高崎高等学校(全日制) 学校評価一覧表 令和6年度版

(別紙様式)

羅 針 盤			方 策	点検・評価			達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価	
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等	達成度			総合
Ⅲ 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。(生徒部・保健環境部)	11 組織的・継続的な指導を行っていますか。	㉑ 生徒部の会議等において、生徒に関する情報交換を月に2回以上実施し、共通理解のもとで指導にあたる。 ㉒ 学校生活において挨拶をしていると認識している生徒が80%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒部会議、教育相談会議において、様々な立場から把握した情報を共有する。共有した情報をもとに、チームとして支援を行う。</li> <li>TPOをわきまえた行動を理解させ、自発的に行動できるようにする。</li> <li>挨拶する習慣を身につけさせるために、全教職員で挨拶運動を行う。</li> </ul>						
	12 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に進めていますか。	㉓ 学校は、いじめ防止や早期発見に向けた取組を積極的に進めていると生徒の80%以上が認識している。		<ul style="list-style-type: none"> <li>「学校いじめ防止基本方針」を周知する。</li> <li>いじめを未然防止するために、他者を思いやる発言や行動を身につけさせる。特に、スマートフォン等の適切な利用について指導を徹底する。</li> <li>いじめ問題に対して早期対応が図れるように、観察と情報収集を適宜行う。</li> <li>いじめの解消については丁寧かつ慎重に行う。また、スクールカウンセラーを適切に活用し、教育相談体制を充実させる。</li> </ul>					
	13 生徒は健康で、規則正しい学校生活をおくっていますか。	㉔ 自身の健康管理に努めている生徒が90%以上である。 ㉕ 学習環境が快適であると感じている生徒が80%以上である。		<ul style="list-style-type: none"> <li>「保健だより」やその他の健康関連情報を適宜発信する。</li> <li>生徒の健康状態・定期健康診断の結果を踏まえ、必要に応じた処置や受診指導を行う。</li> <li>職員及び生徒保健委員による校内巡視や環境測定を定期的実施し、衛生的で安全な学習環境を維持する。</li> <li>冷暖房や照明等の適切な使用の指導、及び施設・設備の点検・整備を行い、必要に応じて机や椅子などの入れ替えに対応する。</li> </ul>					
	14 交通安全を推進していますか。	㉖ 自転車重大事故0件。 ㉗ 安全な自転車の乗り方を心がけていると認識している生徒が90%以上である。 ㉘ 駐輪場でのトラブルを無くす。		<ul style="list-style-type: none"> <li>交通ルールを遵守し、危険予測のできる自転車運転を身につけさせる。</li> <li>全校生徒の交通規範が定着するよう組織的な交通安全指導を行う。</li> <li>自転車駐輪場の遵守、自己管理の徹底を図る。</li> </ul>					
Ⅳ 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。(進路部)	15 高い志を育成し、学ぶ意味を知り、自ら学ぶ生徒を育てていますか。	㉙ 学習量(学習時間)を増加させる。 部活動中は、平日平均で最低2.5時間を達成する。 部活動引退後や検査前は、平日平均で最低3.5時間を達成する。 ㉚ 高い志を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組んでいる生徒が90%以上である。 ㉛ 本校の進路行事や進路関係資料に満足している生徒が90%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>各授業で、学ぶ意味をともに考え、生徒の意欲を高める。</li> <li>教科指導力の向上とやるべきことの精選。</li> <li>教科・学年・進路部での意思統一とシラバスの活用。</li> <li>各進路行事・集会の質を高めるとともに、その意味を正しく伝え、志を育て、夢を育む。</li> <li>各種進路行事への参加を促し、社会に対する問題意識を高める。</li> </ul>						
	16 生徒が自ら進路について考え、進路実現に向けた行動をしていますか。	㉜ 1学年では、文理選択を具体的に考えている生徒が80%以上である。 ㉝ 2学年では、第一志望校に向けて計画的に学習している生徒が80%以上である。 ㉞ 3学年では、第一志望校を定めて計画的に学習している生徒が90%以上である。		<ul style="list-style-type: none"> <li>進路通信の発行や学年集会を開催することで、進路に関する情報を積極的に発信し、具体的な進路目標を早い段階から意識させる。</li> <li>面談を効果的に行い、助言を与えながら、生徒に自信を持たせる。</li> <li>現状分析を踏まえた共通テスト等への迅速な対応と、3年間を見通した指導を推進する。</li> </ul>					
Ⅴ 開かれた学校づくりに努めていますか。(広範渉外部)	17 PTAから信頼される学校となっていますか。	㉟ PTA総会の出席率が50%を超える。 ㊱ 学年保護者会の出席率が80%を超える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>PTA総会への積極的な参加を促し、内容の充実・発展に努める。</li> <li>学年保護者会への積極的な参加を促し、内容の充実・発展に努める。</li> <li>日常的に保護者にとって有益と思われる情報発信に努めるとともに、保護者の声を拾うことに努める。</li> </ul>						
	18 同窓会から大いに支援される学校となっていますか。	㊲ 同窓会新年総会、常任理事会、理事会で毎回現況を報告する。 ㊳ 「先輩教えてください！」を40以上の事業所で行っていたことともに、内容の充実・発展に努める。		<ul style="list-style-type: none"> <li>同窓会報や理事会等で学校の現況を積極的に発信するとともに、幅広く同窓会員の声を拾うように努める。</li> <li>「先輩教えてください！」事業の絶えざる改善及び発展に努める。</li> </ul>					
	19 地域から信頼される学校となっていますか。	㊴ 学校説明会への参加者が400名以上である。 ㊵ 翠巒祭や「翠巒セミナー」に地域の方に参加してもらう。		<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の方々に本校の存在意義を認識していただく。</li> <li>翠巒祭や「翠巒セミナー」などの行事を地域の方々にも周知する。</li> </ul>					
	20 学校ホームページ等を活用して地域に向けて情報を発信していますか。	㊶ 月に4回以上ホームページを更新し、常に最新の情報を発信する。		<ul style="list-style-type: none"> <li>随時、各部署に情報提供を呼びかけるとともに、学校行事等の様子を学校ホームページに掲載していく。</li> </ul>					
Ⅵ 教育のデジタル化に努めていますか。(情報課)	21 ICTを活用した指導を行っていますか。	㊷ ICTを活用した授業に、生徒の80%以上が満足している。 ㊸ 教員の80%以上が、ICTを適切に授業に活かすことができる。 ㊹ 生徒の80%以上が、ICTを有効に学習に活用できると考えている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>全ての教員が各自の授業の中で適宜ICTを用いた指導を立案、実践できるように努める。</li> <li>ICTの適切な活用方法を指導する。</li> </ul>						
	22 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	㊺ オンラインによるアンケートを年3回以上実施している。 ㊻ オンラインによる通知の割合が50%以上である。		<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケート等はデジタルツールを実施して行う。</li> <li>紙媒体からデータへの移行を推進する。</li> </ul>					